

第 2 部 松橋大野貝塚出土遺物報告



拓本風景 2022/2/7

一 位置と環境

松橋大野貝塚は、^{まつばせ}宇城市松橋町松橋 522 番地 1 を中心とする遺跡である。本遺跡は、宇土半島基部地域南半部、八代海を臨む標高 14m ほどの洪積台地上に位置している。この台地は、^{うがだけ}宇賀岳を基点として南方に延びており、3つの小段丘面をそなえている。現在は近世以降の干拓事業によって、海岸線から 3 km ほどの距離があるが、縄文時代はより内陸まで海が入り込み、台地が突出していたと考えられる。

本遺跡の北東には道德山、北側には岡岳と宇賀岳が位置する。南側には二級河川である大野川と浅川、東側には大野川の支流である明神川が流れ、八代海へと注いでいる。

本遺跡の周辺には多くの遺跡が分布している。松橋大野貝塚の南西約 250 m には、松橋大塚古墳が所在する。松橋大塚古墳は、古墳時代中期の前方後円墳である。『松橋大塚古墳』[宇城市教育委員会 2015] によると、規模は全長約 73 m、前方部幅約 27 m、後円部径約 43 m、後円部の高さ約 9 m となっている。また、本遺跡の南約 300 m に位置する松橋前田遺跡では、23 個体ほどの埴輪が出土しており、製作された埴輪を松橋大塚古墳へ供給していた遺跡であると評価されている。[熊本大学文学部考古学研究室 2020]

本遺跡は、過去数回にわたって調査が行われている。1912（大正元）年の調査では、人骨や土偶が出土し注目を集めた。1958（昭和 33）年の道路拡幅工事に伴う調査では、土器が多数出土した。宇城市教育委員会文化振興課の藤川氏によると近年では、2017・2018（平成 29・30）年に調査が行われており、縄文時代後期の埋設土器や、古墳時代後期の集落址が検出された。（川元）



第 10 図 松橋大野貝塚周辺地図

二 報告に至る経緯

現在、熊本大学文学部考古学研究室には松橋大野貝塚から出土したとされる遺物が未報告のまま収蔵されている。これらの遺物はおそらく 1958（昭和 33）年の肥後考古学会による調査の際に出土したものと思われる。遺物は詳細な出土状況がほとんど不明であるが、遺物の実測・報告の練習も兼ねて今回整理・報告を行うこととした。

資料の整理を行う中で、唯一手がかりとなるものとして熊本大学考古学研究室の遺物整理カードが見つかった。しかし、調査当時の記録の所在は不明であり、出土地点や出土状況に関する情報はない。また、遺物を収蔵しているコンテナは 66 箱にのぼり、すべてを整理・報告することは困難であったため、今回はその半数のコンテナの中から報告する土器を選定した。（追立）

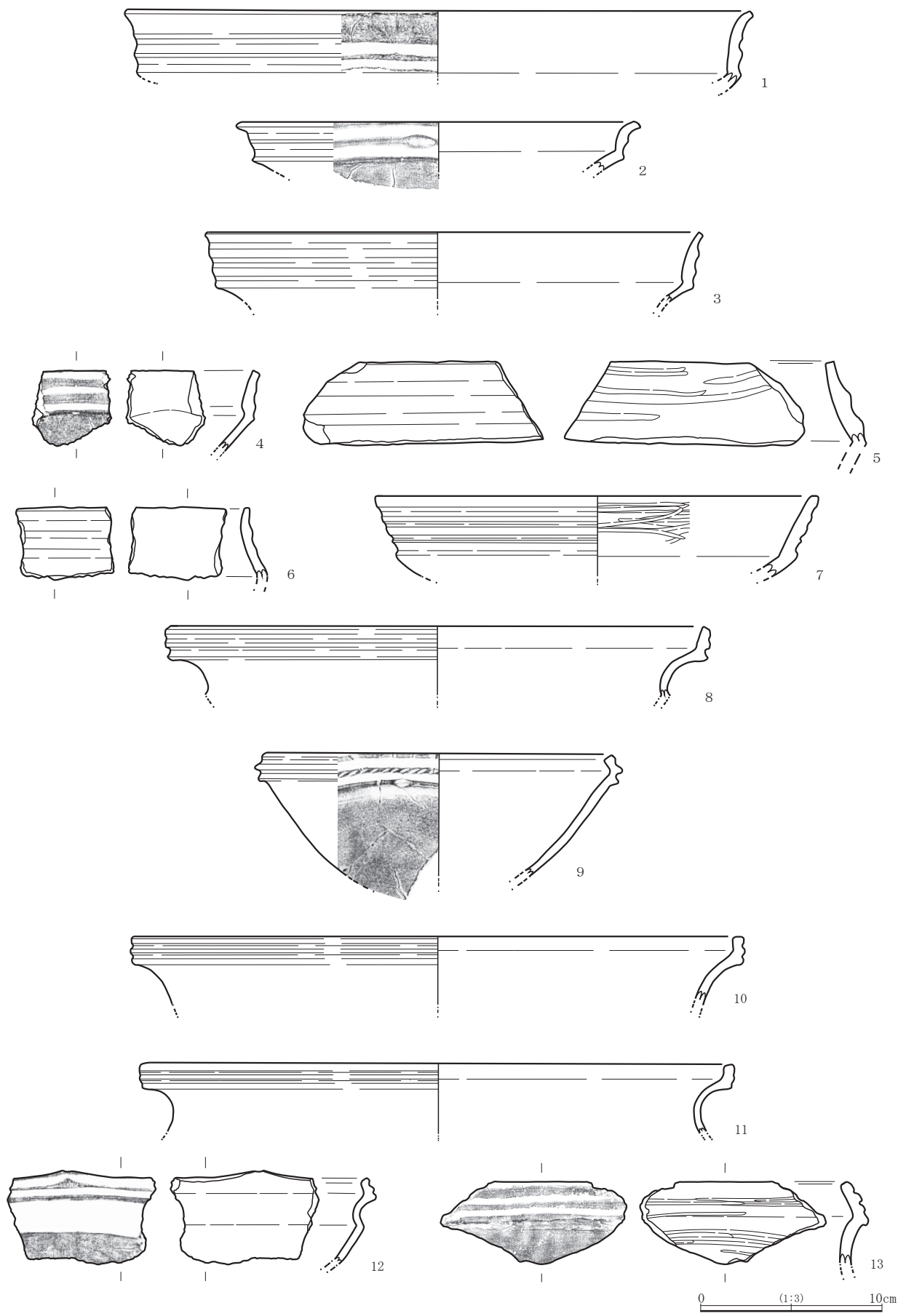
三 遺物

以下、実測した縄文土器 33 点を報告する。

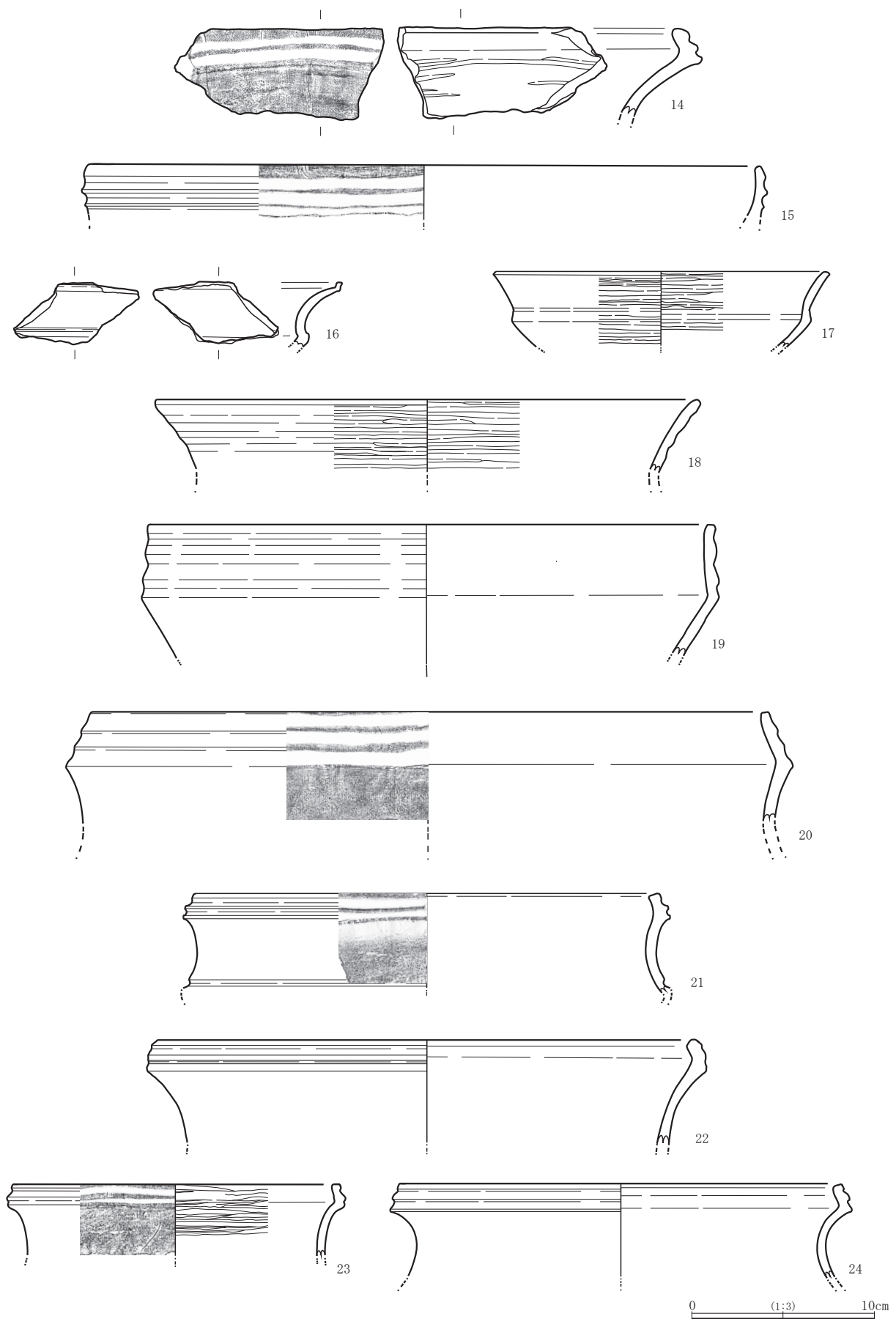
浅鉢（1～17） 1～17 は浅鉢である。調整は主に外面にケズリ・ミガキが、内面にミガキが施されており、一部の土器にはナデが施されている。1～7 は鳥井原式の浅鉢である。口縁部が広く、深鉢よりも外反する。調整として外面にケズリ・ミガキ、内面にミガキが施されている。2 の内面には意図的に押したと思われる凹点がある。8～14 は御領式の浅鉢である。口縁部が狭く、沈線は幅狭で明瞭である。また、屈曲は同じ型式の深鉢のものに比べても強い。9 と 11 の外面と 14 の外内面にはナデが施されている。9 には沈線間の隆帯部分に列状に配置された舟形の文様が観察できる。12 の口縁部には山形突起がみられる。15 は御領式と鳥井原式の両方の特徴を持つ浅鉢である。口縁部は直線的であり御領式の特徴がみられるが、沈線は幅広く、鳥井原式の特徴もみられる。断面は切り離されたようにきれいに割れている。これは、粘土紐の境目で剥離したためと考えられる。16 は天城式の浅鉢である。口縁部は狭く、沈線は不明瞭である。屈曲は他の土器と比べてかなり強く、屈曲部に沈線が施されている。17 は型式不明の浅鉢である。口縁部に沈線は施されていない。強い 1 段屈曲を示し、屈曲部に沈線が施されている。

深鉢（18～31） 18～31 は深鉢である。調整として外面にケズリ・ミガキ、内面にミガキが施されている。ナデが施されているものやミガキだけの土器もある。18～20 は鳥井原式の深鉢である。口縁部が浅鉢と比べて広い。沈線は幅が広く、沈線間の隆起は小さい。21～26 は御領式の深鉢である。口縁部が狭く直線的で、沈線が幅狭で明瞭に施されている。実測した土器の多くは沈線の中を削って磨いており、沈線間の隆帯部分がなめらかになっている。しかし、御領式の深鉢には沈線の中があまり磨かれておらず、隆帯部分が角張っているものがみられる。27～31 は型式不明の深鉢である。28・30・31 には調整としてナデが施されている。30 は 1 段屈曲部分の破片と考えられる。31 の胴部には波状の沈線がみられる。

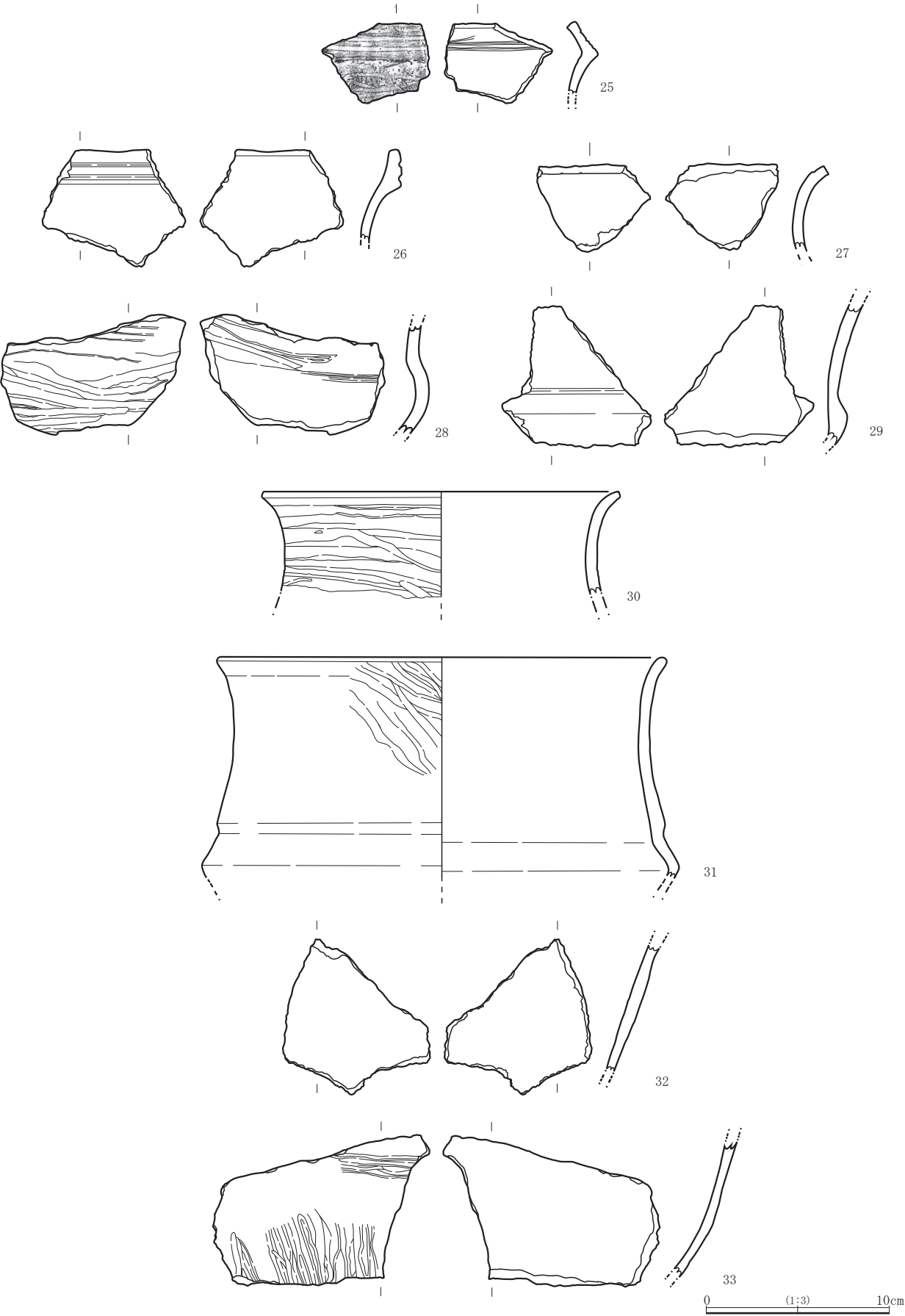
器種不明土器（32・33） 32・33 は器種不明の土器である。調整として外内面にミガキのみが施されている。（佐藤）



第 11 図 松橋大野貝塚出土遺物実測図（1）



第 12 図 松橋大野貝塚出土遺物実測図（2）



第 13 図 松橋大野貝塚出土遺物実測図（3）

三 遺物

第 5 表 松橋大野貝塚出土遺物一覧表

No.	種類	器種	型式	口径 (cm)	残存率	調整	色調	焼成	胎土	出土遺構	注記
1	縄文土器	浅鉢	鳥井原式	33.8	10%	外：ケズリ・ミガキ 内：ミガキ	外：Hue10YR6/3 にぶい黄橙 内：Hue10YR5/3 にぶい黄褐	良好	緻密	2 区	注記なし
2	縄文土器	浅鉢	鳥井原式	28.0	10%	外：ケズリ・ミガキ 内：ミガキ	外：Hue10YR7/6 明黄褐 内：Hue10YR7/6 明黄褐	良好	緻密	2 区	注記なし
3	縄文土器	浅鉢	鳥井原式	26.2	10%	外：ケズリ・ミガキ 内：ミガキ	外：Hue10YR6/2 灰黄褐 内：Hue10YR6/2 にぶい黄橙	良好	緻密	2 区	注記なし
4	縄文土器	浅鉢	鳥井原式	不明	破片	外：ケズリ・ミガキ 内：ミガキ	外：Hue10YR4/1 褐灰 内：Hue10YR3/1 黒褐	良好	緻密	2 区	注記なし
5	縄文土器	浅鉢	鳥井原式	不明	破片	外：ケズリ・ミガキ 内：ミガキ	外：Hue10YR5/1 褐灰 内：Hue7.5YR7/4 にぶい橙	良好	緻密	2 区	注記なし
6	縄文土器	浅鉢	鳥井原式	不明	破片	外：ケズリ・ミガキ 内：ミガキ	外：Hue7.5YR3/1 黒褐 内：Hue7.5YR3/1 黒褐色	良好	緻密	2 区	注記なし
7	縄文土器	浅鉢	鳥井原式	不明	10%	外：ケズリ・ミガキ 内：ミガキ	外：Hue10YR7/3 にぶい黄橙 内：Hue10YR7/3 にぶい黄橙	良好	緻密	2 区	注記なし
8	縄文土器	浅鉢	御領式	29.4	10%	外：ケズリ・ミガキ 内：ミガキ	外：Hue5YR6/6 橙 内：Hue5YR4/6 明赤褐	良好	緻密	1 区貝層中	大野 I 区貝層上
9	縄文土器	浅鉢	御領式	18.6	20%	外：ナデ・ケズリ・ミガキ 内：ミガキ	外：Hue2.5YR7/3 浅黄 内：Hue2.5YR7/3 浅黄	良好	緻密	2 区貝層中	大野 I 区貝層上
10	縄文土器	浅鉢	御領式	30.0	10%	外：ケズリ・ミガキ 内：ミガキ	外：Hue10YR7/3 にぶい黄橙 内：Hue10YR7/3 にぶい黄橙	良好	緻密	2 区	注記なし
11	縄文土器	浅鉢	御領式	31.0	110%	外：ナデ・ケズリ・ミガキ 内：ミガキ	外：Hue7.5YR7/6 橙 内：Hue7.5YR6/6 橙	良好	緻密	2 区	注記なし
12	縄文土器	浅鉢	御領式	不明	破片	外：ケズリ・ミガキ 内：ミガキ	外：Hue7.5YR7/5 にぶい橙 内：Hue7.5YR6/5 にぶい橙	良好	緻密	2 区	注記なし
13	縄文土器	浅鉢	御領式	不明	破片	外：ケズリ・ミガキ 内：ミガキ	外：Hue10YR7/4 にぶい黄橙 内：Hue10YR6/3 にぶい黄橙	良好	緻密	2 区	注記なし
14	縄文土器	浅鉢	御領式	不明	10%	外：ナデ 内：ナデ・ミガキ	外：Hue10YR6/2 灰黄褐 内：Hue10YR5/2 灰黄褐	良好	緻密	2 区	注記なし
15	縄文土器	浅鉢	鳥井原式？ 御領式？	36.0	10%	外：ケズリ・ミガキ 内：ミガキ	外：Hue2.5Y7/3 浅黄 内：Hue10YR8/3 浅黄橙	良好	緻密	2 区	大野貝塚
16	縄文土器	浅鉢	天城式	不明	破片	外：ケズリ・ミガキ 内：ミガキ	外：Hue10YR7/2 にぶい黄橙 内：Hue10YR2/1 黒	良好	緻密	2 区貝層土	注記なし
17	縄文土器	浅鉢	不明	27.0	20%	外：ケズリ・ミガキ 内：ミガキ	外：Hue7.5YR6/4 にぶい橙 内：Hue7.5YR7/4 にぶい橙	良好	緻密	2 区最下層 床面クズ	注記なし
18	縄文土器	深鉢	鳥井原式	29.2	10%	外：ケズリ・ミガキ 内：ミガキ	外：Hue2.5Y5/3 黄褐 内：Hue7.5YR5/4 にぶい褐	良好	緻密	2 区	注記なし
19	縄文土器	深鉢	鳥井原式	不明	破片	外：ケズリ・ミガキ 内：ミガキ	外：Hue2.5Y3/1 黒褐 内：Hue2.5Y3/1 黒褐	良好	緻密	2 区	注記なし
20	縄文土器	深鉢	鳥井原式	30.4	10%	外：ミガキ 内：ミガキ	外：Hue2.5YR7/3 浅黄 内：Hue2.5YR4/1 黄灰	良好	緻密	純貝層西端	注記なし
21	縄文土器	深鉢	御領式	23.1	破片	外：ケズリ・ミガキ 内：ミガキ	外：Hue10YR7/4 にぶい黄橙 内：Hue10YR7/4 にぶい黄橙	良好	緻密	1 区貝層中	注記なし
22	縄文土器	深鉢	御領式	29	10%	外：ケズリ・ミガキ 内：ミガキ	外：Hue5YR6/6 橙 内：Hue2.5Y5/1 黒褐	良好	緻密	2 区	注記なし
23	縄文土器	深鉢	御領式	13.6	10%	外：ケズリ・ミガキ 内：ミガキ	外：Hue5Y4/1 灰 内：Hue5Y4/1 灰	良好	緻密	2 区	注記なし
24	縄文土器	深鉢	御領式	22.6	20%	外：ナデ・ケズリ・ミガキ 内：ナデ・ミガキ	外：Hue2.5Y6/3 にぶい黄 内：Hue2.5Y3/1 黒褐	良好	緻密	2 区	注記なし
25	縄文土器	深鉢	御領式	不明	破片	外：ケズリ・ミガキ 内：ミガキ	外：Hue10YR3/1 黒褐 内：Hue2.5Y5/2 暗灰黄	良好	緻密	2 区	注記なし
26	縄文土器	深鉢	御領式	不明	破片	外：ケズリ・ミガキ 内：ミガキ	外：Hue5Y3/1 オリーブ黒 内：Hue7.5Y3/1 オリーブ黒	良好	やや粗	2 区	注記なし
27	縄文土器	深鉢	不明	不明	破片	外：ミガキ 内：ミガキ	外：Hue7.5YR4/2 灰褐 内：Hue7.5YR7/2 明灰褐	良好	緻密	1 区	注記なし
28	縄文土器	深鉢	不明	不明	破片	外：ミガキ 内：ナデ・ミガキ	外：Hue10YR7/3 にぶい黄橙 内：Hue10YR7/2 にぶい黄橙	良好	緻密	2 区貝層下 土層	注記なし
29	縄文土器	深鉢	不明	不明	10%	外：ミガキ 内：ミガキ	外：Hue10YR2/3 黒褐 内：Hue10YR2/1 黒褐色	良好	緻密	2 区	注記なし

30	縄文土器	深鉢	不明	不明	破片	外：ナデ・ミガキ	外：Hue10YR4/2 灰黄褐	良好	緻密	2区	注記なし
						内：ミガキ	内：Hue10YR7/3 にぶい黄橙				
31	縄文土器	深鉢	不明	22.4	20%	外：ミガキ	外：Hue10YR7/3 にぶい黄橙	良好	粗	3区混土貝層	注記なし
						内：ナデ・ミガキ	内：Hue10YR3/1 黒褐				
32	縄文土器	不明	不明	不明	破片	外：ミガキ	外：Hue7.5YR7/4 にぶい橙	良好	やや粗	2区貝層下土層	注記なし
						内：ミガキ	内：Hue2.5YR6/2 灰黄				
33	縄文土器	不明	不明	不明	破片	外：ミガキ	外：Hue7.5YR3/1 黒褐	良好	緻密	2区最下層床面クズ	注記なし
						内：ミガキ	内：Hue7.5YR6/4 にぶい橙				

四 総括

今年度は、熊本大学文学部考古学研究室に収蔵されている松橋大野貝塚出土の未報告資料を全体の約半数に絞って整理し、その中から特に型式を判別可能と思われる土器 33 点をピックアップして報告を行った。

松橋大野貝塚出土土器の時期と様相 報告した土器の多くは外面と内面の両方にミガキ調整が施された黒色磨研土器である。〔宮地 2008〕器種は、浅鉢と深鉢の 2 種が確認できた。型式に関しては、鳥井原式が 10 点、御領式が 13 点、鳥井原式と御領式両型式の特徴を有するものが 1 点、天城式と思われるものが 1 点、不明のものが 8 点であった。この資料の傾向から考えると本遺跡は鳥井原式土器から天城式土器に相当する縄文時代後期後半の遺跡であると推定される。

課題 調査当時の出土状況などの詳細が不明であるため、今回は土器 33 点の傾向を示し、そこから遺跡の時期を推定するにとどめる。鳥井原式は 1977（昭和 52）年に富田紘一氏によって設定された土器型式であり、松橋大野貝塚が調査された 1958（昭和 33）年当時には存在しない型式名となっている〔宮地 2008〕。したがって、『松橋町史』では本遺跡に関して、三万田式や御領式の土器が出土したと解説されているが〔林田 1979〕、今日的な視点でみると三万田式でなく、鳥井原式～御領式を中心とした土器群である可能性が高い。ただし、調査当時の詳細な出土状況が不明な上、今回は松橋大野貝塚の未報告資料のうち一部を整理・報告したのみであるため、遺跡の時期に関する推定が正しいか否かについてはさらなる調査が必要である。（追立）

参考文献

- 1 宇城市教育委員会 2015『松橋大塚古墳』宇城市文化財調査報告 第 5 集 宇城市教育委員会
- 2 熊本大学文学部考古学研究室 2020「松橋前田遺跡出土資料報告 1」『考古学研究室報告』第 55 集
熊本大学文学部考古学研究室 p. 49
- 3 林田憲義 1979『松橋町史』改定増補 松橋町 p. 882
- 4 宮地聡一郎 2008「黒色磨研土器」『小林達雄先生古希記念企画 総覧 縄文土器』『総覧 縄文土器』刊行委員会 pp. 790～797